

家族の構造と転換（その1）

— 一夫一婦制・近代労働者家族・日本の家族 —

浅野慎一『現代日本社会の構造と転換』「第9章 家族の構造と転換」大学教育出版

I. 人類の家族史と父系性・一夫一婦制の誕生

人類史：「生活物資の生産」&「生命の生産」の共同活動とその変化。

近代以前：2つの共同活動の単位＝家族。（人類史≒家族史）

近代家族：「生活物資の生産」機能の喪失。（市場目当ての大規模な工業生産が中心）
「生命の生産」機能は維持。

現在の家族：一夫一婦制。

狩猟・採集：複数の男性・女性からなる大規模な家族。血縁でつながった部族。母系性。

放牧・農業：生産力の向上。余剰生産物・個人的所有（私有財産）の生成。

1) 部族間交換：決定・処分権、占有。

2) 部族（共同体）内部：生産力向上、私的所有。

私的所有権：男性。（←最初の交換基準物＝家畜：飼育担当＝男性）。

→男性による相続の欲求。

男系の子供確定の必要。父系性。一夫多妻制・一夫一婦制の生成。

父系性・一夫一婦制：財産所有をめぐる男性の優越的・支配的地位。（女性の地位低下）。

結婚の目的：男児（跡継ぎ）の確保。

結婚相手の選択基準：家産の釣り合い。（≠個人的愛情）

近代・資本家階級：私有財産に根差す父系制。「閨閥」。

II. 近代労働者家族の特徴と脆弱性

近代・労働者階級：無産階級。∴ 男性の優越的地位の基盤解消。

恋愛結婚。「家族＝愛情に基づく生活共同体」。

様々な脆弱さ。

①家業・家産なし。仕事を求めて移動・放浪。失業。

家族の小規模化（核家族・単独世帯）。（←農民：大規模な直系・複合大家族）

家族解体、「生命－生活維持」機能の低下。

②資本主義の生産様式：近代労働者家族に新しい性差別を創出。

家族：「生活物資の生産」機能の喪失。労働市場で社会的評価・賃金労働。

「生命の生産（家事・育児・介護）」＝家族内部でのプライベートな無償労働。

＝女性の分担に固定化（←出産・授乳等）。

「男は外（仕事）、女は内（家庭）」という性別役割分業の定着。「主婦」の生成。

女性：労働市場での低い地位・差別的雇用。経済的自立の困難。

③「先進」諸国：家族の存在意義の希薄化。

家事・育児の外部化・市場化。

福祉国家化。家族に依存しない諸個人の自立。

女性：性別役割分業への異議申し立て。

④個人的性愛・愛情による結合：移ろいやすい情緒的關係。離婚率の上昇。

家族解体、「非家族現象」の拡大。

離婚、母子家庭・父子家庭、家族以外で養育される子供。児童虐待、高齢者独居、「老老介護」。
個人の自立性を重視したライフスタイル：シングル、DINKS (Double Income No Kids)、
シェア・ハウジング。

同棲・事実婚、婚外子。

家族：「生命の生産（最後の機能）」の喪失。出生率低下。歴史的使命の終焉？。

Ⅲ. 日本における家族の機能と構造

「非家族現象」・家族解体：日本でも進展。合計特殊出生率・生涯非婚率。

グローバル化：日本人男性（外国人女性）の婚外子の急増。「非家族現象」の海外輸出。

BUT 日本の家族：法律的な「家族」が根強く維持。「非家族現象」が表面化せず。

∴ ①親子関係中心。血統に基づく養育・介護。（≠夫婦関係：自立した個人）

ex) 高齢者の家族介護。「御両家」の結婚式。夫婦の呼称（「お父さん／お母さん」）。

「子供のために離婚すべきでない」。

親子関係：解消不能。

②夫婦の性別役割分業。

「男は仕事、女は家庭」、「女性は結婚したら自分自身のことより夫や子供など家族のことを中心に考えて生活した方がよい」、「夫は仕事、妻は家庭とパート」（女性のM字型就労）。

男女とも自立困難。

Ⅳ. 日本型家族の危機

日本の家族：矛盾噴出。

①「男性不在の家族状況」（長時間労働・単身赴任、過労死等）

家族の性別役割分業（「男は仕事、女は家庭」）。男性：企業での仕事に専念。

男性の非婚化。

②女性の過重負担（共働き） & 葛藤・悩み（専業主婦）。

性別役割分業への不満。

③経済効率原理による浸潤。

「家族のため（≡家族の経済的な生活水準の維持・向上のため）」の自発的な性別役割分業。

愛情原理→経済効率原理。

→夫婦関係の「空洞化」。中高年の離婚、「家庭内離婚・別居」、夫婦の無関心。

主婦のアルコール依存、不倫等。

親子関係を含む家族全体の「空洞化」。

父親の「家庭内不在」、無関心。

母親の子供への「過剰な期待の仮託、過保護・過干渉」。

子供の学歴獲得競争・多忙化。「家での生活が楽しい」・「困ったことがあるとき両親に相談する」・

「両親のような人になりたい」子供達の少なさ。

「夫は企業戦士、子供は受験戦士、妻（母）は銃後の守り」：性別・世代別役割分業。

各自がその役割を忠実に遂行・努力するほど、家族相互の接点は喪失・家族の「空洞化」。

Ⅴ. 血統主義・性別分業の文化的背景

日本の家族：血統に基づく親子関係中心 & 性別役割分業。

←近代以前の封建的家父長制の伝統、儒教文化の影響？

ex) 近世初期の武士階級：直系家族形態・父系相続（嫡男の家督相続）。

東アジア（日本・韓国朝鮮・中国）の儒教文化。

キリスト教：結婚＝夫婦の一体化。夫婦同姓。

儒教：家族の中心的価値＝祖先崇拜・孝行など血縁・親子関係。夫婦別姓（父子同姓）。

BUT ①近世以降の日本家族（庶民）：家父長の専制的権力は脆弱。

ex) 女子・均分相続、「末子相続」等、多様な慣習。

家父長の権力：「イエの繁栄・継承」という至上目的に束縛。（≠独裁的支配）

庶民の女性：農業生産の不可欠の担い手、家計裁量の権限。

②現在の日本家族：近代化（≠封建的・家父長的伝統の残滓）

ex) 直系家族・3世代同居：家計・財布は別々の「二世住宅」。

「御両家」の結婚：形式的。（≠家名の存続・家父長の決定）。

親子関係中心：子供中心の生活。（≠家父長中心。「家の跡継ぎ」）。

∴ 明治以降の近代化の中で新たに創出（≠封建制・儒教文化の「残滓」）。